青葉もゆる

東北大学男声合唱団
ＯＢ会会報　第一号
発行日（19.11.18）

ＯＢ会会報「青葉もゆる」発刊にあたって

東北大学男声合唱団ＯＢ会東京支部
支部長　春日　健

平成十九年十一月十七日のＯＢ会総会兼東京支部第三回総会の開催にあわせて、ＯＢ会発足以来念願になっておりましたＯＢ会の「会報第一号」が発行される運びとなりましたので、一言ご挨拶申し上げます。

ＯＢ会は自由な立場で合唱芸術追求の機会を楽しみ、集う会員が互いに親睦を図ることを旨としておりますが、私は平成十七年十二月の第二回総会において第二代目の支部長を仰せつかり、皆様のご支援をいただきながらＯＢ会の発展を念頭に努力して参りました。その間お陰様を持ちまして会員の方々が参加した演奏会も思い起こせば枚挙にいとまがありませんが、例えばオペラシティホールでの熱気あふれる演奏然り、異色のワイルドボーイズコンサート然り、津和野での心温まる演奏然り、男声の真髄を発揮した東大ＯＢ演奏会への賛助演奏然り、和やかなフラッピング・ブラザーズのコンサート然り、津和野組曲に沸いたトッパンホールでの演奏然り、猛暑を吹き飛ばして歌った大学百周年記念コンサート然り、繊細な男声ハーモニーが響いた近江楽堂のコンサート然り、そのいずれもがそこに参加しそこに集ったＯＢの方々の情熱と笑顔がＯＢ会活動そのものの証しであったと思います。

このような会員によるいろいろな活動の様子や会員同士の情報の発信媒体としては、インターネットを活用したＯＢ会ホームページや折々の電子メールが主にその役割を担って参りました。その一方、広い年代層からなるＯＢ会としましては、活動の記録を保存したり閲覧したりするために活字媒体による情報手段も強く求められておりました。

このたび関係者の努力を得まして、その要望に応えるべく会報の第一号が発刊され電子媒体とあわせて強固な情報手段を手にすることが出来るようになりましたのは、ＯＢ会の発展にとり誠にうれしいことであります。

会員の皆様方に親しまれる紙面作りを目指して努力して参りますが、何よりもまず皆様から広い分野にわたっての自由闊達な寄稿をいただけますようにご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

ＯＢ会活動記録

一、総会、学年委員会等

（一）第一回ＯＢ会総会、東京支部総会

平成十五年七月十三日、学士会館にて開催。会規約を承認し、仁科博之さんの会長、藤田紀夫さんの東京支部長を承認。

（二）第二回ＯＢ会東京支部総会

平成十七年十二月三日、学士会館にて開催。六十六名が出席し支部長に春日健さんを承認。会費徴収、ＨＰ開設を決定（松本さんに依頼）

（三）五十周年記念誌の発行

境田さん（五十年卒）を中心にご苦労いただき、平成十八年三月、五十周年記念誌が発行されました。

（四）ＯＢ会の現状確認と今後の活動協議

平成十八年四月十三日、仙台にて、仁科会長にご出席いただき、東京、仙台両支部役員が集い、翌年に大学百周年を控え、ＯＢ会の活動のあり方を協議しました。

（五）仙台支部発足総会

平成十八年八月十九日、仙台市一番丁の居酒屋「樽」で、仙台支部設立総会が開かれました。清水廣行さんの支部長を承認。

（六）学年委員会の開催（東京）

平成十八年九月九日、東大コールアカデミーＯＢ会からの同会主催演奏会への賛助出演の打診があったのを受け、対応を協議しました。

賛助出演に出席者の賛成を受け、実行委員会が組織されました。

二、各種活動履歴紹介

（一）男声ＯＢ合唱団・コール青葉の活動について

運営統括に赤星晴夫さん（四十九年卒）音楽監督に岩渕秀俊さん（四十九年卒）を配して、毎年、エネルギシュな活動を展開しています。

平成十八年

三月十二日・東京オペラシティコンサートホール
男声合唱組曲「雪明りの路」（指揮　岩渕秀俊）
混声合唱組曲「心の四季」（指揮　末光眞希）
合唱による風土記「阿波」（指揮　末光眞希）
オリジナルステージ「風を見る」
指揮　岩渕秀俊　ピアノ小原　孝
チェレスタ　森ミドリ

十月十五日・東京オペラシティコンサートホール
小原　孝ピアノ・リサイタルに賛助

平成十九年

東京オペラシティでの演奏会のほかいくつかの演奏機会があり、活躍しました。

三月十一日・東京オペラシティコンサートホール

男声合唱組曲「富士山」（指揮　熊谷晃）

混声合唱組曲「津和野」（指揮　岩渕秀俊）

合唱のためのコンポジション第六番

（指揮　岡崎光治）

オリジナルステージ「時を超えて」

指揮　岩渕秀俊　ピアノ小原　孝

三月十七日　安野光雅美術館開館六周年・混声合唱のための組曲「津和野」完成・城跡コンサートに招かれ八十名が参加しました。

演奏曲　混声合唱組曲「津和野」ほか

七月二十九日・トッパンホール

チェレスタと歌による安野光雅・森ミドリの世界、「雲の歌　風の曲」コンサートに出演しました。

ヴォイストレーナーの四人の声楽家も加わり森ミドリさんの書き下ろし曲によるステージがあり、声楽を楽しむ演奏会にもなりました。

出演　森ミドリ（お話、演奏）

武仲圭子（ソプラノ）

紙谷弘子（メゾソプラノ）

谷川佳幸（テノール）

成田　眞（バス・バリトン）

演奏曲　混声合唱組曲「津和野」ほか

指揮　岩渕秀俊

西澤潤一元東北大学総長がお見えになり、懇親会の席でご挨拶をいただきました。

（二）東大アカデミカコール演奏会賛助出演

かつて大学合唱協会で交流のあった東大コールアカデミーのＯＢ合唱団のアカデミカコールから同合唱団演奏会への賛助の呼び掛けがあり、学年委員会の賛成を得て、参加にふみきりました。

平成十九年六月三十日、第一生命ホール

演奏曲　男声合唱組曲「沙羅」

指揮　須田信男（五十二年卒）

ピアノ　永井陽子

合同演奏　東大アカデミカコール

京大グリークラブＯＢ会

多田武彦作品集（富士山ほか）

（三）仙台支部の活動

ア、男の合唱まつり

平成十九年一月二十一日、仙台市青年文化センターで、第八回男の合唱まつりが開かれ、参加は三十一団体に及びました。

我が東北ＯＢは新田昭夫さん（三十二年卒）の指揮で二十五名が参加しました。

演奏曲　ボルガの舟歌、婆やのお家

この演奏会には、五分の制限時間を越えると一升瓶一本を納める罰則があり、この収穫が懇親会にまわるというシステムでなごやかな運営がなされています。

イ、「シベリアの風」の収録と放映

「シベリアの風」は仙台藩支藩の岩出山藩主従の北海道荒野開拓の苦闘物語を岩出山の子孫が詩を書き、曲をつけたものです。この曲を岡崎さんに依頼して男声四部に編曲していただきＯＢが集まり練習し三月二十七日のミヤギＴＶの「ＯＨ、バンデス」の放映にこぎつけました。

ウ、「古い顔」でＴＶ出演

「シベリアの風」に続いて六月十八日「古い顔」で、ミヤギＴＶに東北男声ＯＢが出演しました。これは「あの歌は今」という投書をもとにルーツをたどるというものです。

ディレクターがさとう宗幸をたずね、詩とメロディを紹介すると、すぐ「古い顔」という歌だと答え、詳しくは岡崎さんがご存じだと語り、次に、岡崎さんが登場しました。古い顔の作曲者や作詞の過程を話し、ちょうど男声ＯＢの集まりがあると紹介しました。ここで、仙台のＯＢの皆さんが「古い顔」を歌っているところが映されました。

三、東北大学創立百周年行事関連活動

東北大学は明治四十年（一九〇七）六月二十一日わが国で三番目の帝国大学として創設され、本年百周年を迎えました。

（一）東北大学創立百周年記念講演会

六月二十三日、学士会館で創立百周年記念講演会（祝賀会）が行われました。この会の主催者の全学同窓会関東支部から、祝賀会での合唱演奏出演の依頼があり、有志を募って出演しました。

坂水久之さん（三十七年卒）の指揮で青葉もゆる歌え若人、野ばら、古い顔などを演奏しました。

「祝典に歌あり！」合唱の参加で会場に大輪の花が咲きました。（詳細はＨＰに掲載）

（二）東北大学百周年記念・市民コンサート

八月二十六日、宮城県民会館にて開かれました。交響楽団、男声合唱団、混声合唱団の三団が三年前から企画し、実現しました。これの実行委員長は末光眞希さん（五十年卒）があたり、成功に導きました。

このコンサートに合唱は男声現役・OB、混声現役OB、女声OG、一般市民の方々、総勢二百二十名が参加し、オーケストラと合わせ総勢三百名の大演奏となりました。

「東北大学祝典歌―私たちは進む―」（作曲岡崎光治）と「交響曲第九番―合唱―」を、昼夜二回公演で演奏しました。

同日、片平キャンパスで百周年記念まつり、記念祝賀会が開かれていましたが、昼夜延べ二千名を越す来場者がありました。

アンコールには、岡崎光治さん編曲のオケ版「青葉もゆるこの陸奥」が演奏され会場から万雷の拍手が鳴りました。

我が男声は現役十三名、OBが三十九名参加しました。このうち、東京からは九名でしたが、女声OG、混声OBを加え三十名が坂水さんの指導でカラヤンのベルリンフィルの第九カラオケで集中練習をして臨みました。

（三）東北大学百周年記念式典

市民コンサートの翌日、八月二十七日、川内の仙台国際センターで記念式典が開かれました。式典の締めとして、市民コンサートと同じメンバーで「祝典歌」を披露しました。オケ版「青葉もゆるこの陸奥」はここでも最後に演奏されました。国内外の来賓者四百名を含む、九百名の参列者が全員起立して聴いてくださりクライマックスを飾るにふさわしいファンファーレになりました。

百年（ももとせ）を祝う調べは厳かに
　青葉の山に　遠くこだます

安堵の中に行事は幕を閉じました。

四、小編成による多彩な活動

（一）ワイルドウーマン　ライブ日本公演賛助

白田正樹さん（四十八年卒）が企画する、ワイルドウーマン　ライブ日本公演の横浜演奏会、仙台演奏会にOB有志がワイルドボーイズを組織して出演しました。

「ワイルドウーマン」はニューヨークで活躍する平均六十八歳の世界最高齢のブルースコーラスのトリオです。

ア、仙台演奏会

平成十八年五月二十九日、仙台市旭ヶ丘青年文化センター

舟生俊夫さん（四十五年卒）の指揮で、男声OB、東北学院OB連合で賛助しました。深い河などニグロを演奏しました。

イ、横浜演奏会

平成十八年六月十八日、横浜市教育会館ホール

白田正樹さんの指揮で四十八・九年卒を中心にメンバーを組織しました。

両演奏会は短い練習ながら結束ある演奏を披露できました。

（二）トンペイメモリアルズの活躍

昭和五十年代卒のメンバー有志は「トンペイメモリアルズ」を冠して活動しています。

ア、東京男声合唱フェスティバル

トンペイメモリアルズは、この第一回から出て毎年、人気投票で上位にあげられてきました。

平成十八年十一月二十三日の第六回フェスティバルでは、多田武彦の「尾崎喜八の詩から」をとりあげ、加藤旨彦さん（五十四年卒）の指揮で演奏し、一番の人気をあつめました。

イ、前橋高校百三十周年記念演奏会に賛助

平成十九年六月三十日、前橋高校百三十周年記念演奏会に賛助出演しました。

五十三年卒の小山昌人さんは、前橋高校のPTA会長を務められています。この前橋高校の百三十周年記念に男声合唱団を組織し、記念演奏会を開くことになり、トンペイメモリアルズのメンバーが参加しました。メモリアルズの四人が指揮台に立ちました。佐川元保さん（五十五年卒）、加藤旨彦さん（五十四年卒）、嵯峨秀夫さん（五十七年卒）、そして小山昌人さんです。小山さんは、ソロと最後のアンコール「最上川舟歌」「斎太郎節」を指揮しました。

（三）フラッピング・ブラザーズ演奏会

八年前にトップの川上さんがなくなり、歌声は途絶えました。三年前に村上敏明さんを迎えて、セカンド、白田さん、バリトン、大島さん、バス、景山さんが再び練習を始めました。ピアノに学生時代のパートナー、半田千里さんも加わってくれました。こうして平成十九年七月二十一日タワーホール船堀小ホールで演奏会に漕ぎ着けました。

川上さんの奥さん裕子さんがフルートで出演し、弟分のスウィンギングエコーズも賛助しました。

男声OB会の皆さんの応援をいただき、約二百名のお客様を集めることができました。

（四）リードオルガン伴奏での「月光とピエロ」

佐藤泰平さん（三十四年卒）の「うたとリードオルガンの夕べ」に、OB有志が泰平コラリアーズを結成して「月光とピエロ」を演奏しました。

繊細なハーモニーを表現し、好評を得ました。

（十九年九月二十一日、近江楽堂）

五、会員からの寄稿

（一）「ワイルドウーマン」との最高のリベンジ

白田正樹（四十八年卒）

話は三十五年前の第二十回定演に溯る。男声がいわば、『社会派反戦路線』から『ロック路線』に転換した年だ。別に意識して変えたわけではない。前年に慶応ワグネルが初演した「ポギーとベス」を歌いたかっただけだ。この曲をやるには二人のソリストが必要だ。当時、芸大に在籍中の親友の武藤順九（ローマ在住、今や世界が注目する彫刻家だ）にオペラ科修士生を紹介してもらった。定演は大成功だった。服装を自由とし下をジーンズにしたのもよかったし客席から団員が一人ひとり駆け上がっていくというパフォーマンスも受けた。ただ一つだけ心残りがあった。男声コーラスとソリストとのフィーリングの違いというものか。特に名曲「サマータイム」をソリストがオペラ調のソプラノで朗々と歌い上げるのを聴いたとき『ちょっと違うな』という思いが残ったのだ。

そして三十余年の月日が流れ、私もNYに移住して二十八年がたっていた。そんな時「ワイルドウーマンというR&Bの三人の女王の日本ツアーのスポンサーになってほしい」との話が来た。メンバーの中にマキシムブラウンがいた日本で言えば美空ひばり級の大物だ（大ヒット曲、“Hold on, I'm coming” は「さんまの恋のから騒ぎ」のエンディングテーマ曲として使われている）。『マキシムと一緒にサマータイムを歌えたらあの時のリベンジが出来るかも…』という考えが頭をかすめた。「仙台と首都圏で男声合唱とのコラボレーションのステージを設けること、そしてそのステージのプロデュースを私に任せること」という二つの条件を提示したら、意外にもあっさり受け入れられてしまったのである。その後はご承知のとおりだ。『仙台ワイルドボーイズ』と『横浜ワイルドボーイズ』の結成に向けて奔走することになった。仙台は舟生さんに泣きこんで、指揮を無理やり引き受けていただいた。末光さんにも協力してもらった。結果は素晴らしいものだった。仙台でも横浜でも最高のコラボが出来たと思っている。ビバリーとマキシムも『これぞブルースだ！』というフィーリングで歌ってくれた。南部の広大な綿花農園ののどかさや真夏のけだるさが見事に表現されたと思った私にとっては三十四年前のうっぷんを晴らした瞬間でもあった。

十月七日、岡崎さん主催の「コーラス百貨店」の練習に初めて参加した。久しぶりに仙台ワイルドボーイズの何人かと再会できた。皆さんから改めて「楽しかった」「素晴らしい経験をさせてもらった」と感謝の言葉をいただいた。そんな時、あのコンサートをやって本当によかったと思う反面、「個人的なリベンジにつき合わせてしまったかな」とちょっぴり後ろめたい気持ちになるのである。

（二）津和野にて

東北大学男声OB合唱団・コール青葉
城跡コンサート　長崎文康（四十九年卒）
島根県津和野町
モーツァルト生誕の地、ザルツブルクに似た山あいの城下町。森鴎外や西周（にしあまね）でも知られる。清冽な川の流れと遊ぶ鯉。

三月十七日、オペラシティから一週間ぶりに顔を揃えた八十人。みんなワクワク上天気。
練習は津和野小学校音楽室。そして校庭で津和野城跡を見ながら歌った「津和野の風」、今はない老いたポプラ。空舞う鷺（さぎ）。

会場は安野光雅美術館ロビー特設ステージ。朝から陣頭指揮の町長さん。お客さん百五十人。
森さんの進行・ピアノ。安野さんとのトーク。
鷺の舞ムジカ合唱団の女声コーラス。
津和野で「津和野」を歌う喜び、幸せ。
安野さん八十歳の誕生祝い。
暖かいカンマーコンサート。
アンコールに応えて歌った「青葉もゆる」
演奏会後、一緒に歌った子供たち。

打ち上げは
老舗の旅館で、山海珍味に舌鼓。
二十五人、四列の大宴会。
安野さん、森さん、町長、議長、教育長、館長
副館長、町の名士は総出のおもてなし。
ポンポコ踊りの本邦初演。そして一層夜が更けた。

家々で野花を飾り、箒目のはいった清々しい朝町を歩いて感じる、町を愛する心、訪ねる人をもてなす気配り。gast-freundlich な大人の精神

津和野！　ありがとう。

男声ホーム・ページを活用下さい！
http://tohokudai-danseiob.net
会員IDの申込みは、小松まで問合せ下さい。
masayoshi.komatsu@hotmail.co.jp

加藤康司さん（四十一年卒）が、学士院賞受賞という栄誉に輝きました。引地さんに寄稿していただきました。

（三）加藤康司君の学士院賞受賞、ブラボー！

引地信昭（四十一年卒）

加藤康司君（東北大学名誉教授）の学士院賞受賞を心からお祝いし、その喜びを共にしたいと思います。

この六月十一日、天皇皇后ご臨席のもと学士院会館にて、第九十七回受賞式が挙行され、それに先立って各受賞者が両陛下に研究内容等をご説明、質疑の後、十一名が受賞されました。

この制度は明治四十三年に創設され、受賞式は翌四十四年から行われています。過去の受賞者には、野口英世、湯川秀樹、江崎玲於奈、小柴昌俊などの名が並び、総数は六百九十六名とのことです。

加藤君の専攻科目は「機械工学・トライボロジー」。今回の受賞理由は「可視化法により、静止摩擦係数の発生機構を解明、次いで摩擦と摩耗の微視機構を解明し、その両者を統合することにより、初めて摩耗形態図を創成。これにより摩耗状態の診断・予知が可能となり摩擦設計法の構築に貢献。また彼の発明した『トライボコーティング潤滑法』は、宇宙での長期使用のために、国際宇宙ステーションにおける試験を経て、実用化への発展途上にある。それらの業績はトライボロジーを学問として確立するための基礎的諸理論の構築を行い、さらに、発電生産、情報、環境、宇宙など広大な分野にトライボロジーの先端技術を開拓したものであり、国内外の学界と産業界の高い評価を得ている」とのこと。（なお、『トライボロジー』とは、我々学生時代には聞いたことのない言葉だが、摩擦・摩耗、潤滑に関する科学を統合・包括する境界学問で、一九六六年にイギリスで創設されたもの）彼は、助教授時代の一年間、ＮＡＳＡ学術研究会議の研究員でもあり、フランス・リヨン工科大学他から多くの栄誉賞を受賞し、スウェーデン王立工学科学アカデミー外国会員にも選ばれている。

加藤研究室と私

私ごとで恐縮ですが、会社を定年退職する際、彼から声がかかり、「オレのところで機械図面を書け！」と。喜んで懐かしい古巣の青葉山に通いました。研究室のゼミ（川渡温泉）にも何回か参加させてもらいました。留学生も多いので、半分は英語での講義のこともあります。彼は今年三月末、東北大学を定年退官。青葉山の最終講義があった。連れて行ったカミさん曰く「とてもわかりやすかった。面白かった」と思いもしなかった言葉が…。しかし、いつも一緒の雪子夫人は体調がすぐれずにその場に姿がないのは、なんとも寂しかった。それもあってか、カミさんの聴講を、彼はとても喜んでくれました。

学士院賞受賞祝賀会

最終講義の直後に学士院賞受賞の報が入った時研究室、大学とも突然色めき立ちました。東京で予定していた講演会や謝恩会も大幅な設計変更が強いられ、助教授、助手、学生の企画陣のあわてぶりは尋常でなかったようです。

五月二十六日、東京国際フォーラムでの特別講演会、帝国ホテルでの謝恩祝賀会となりました。

雪子夫人も出席できたことは嬉しかった。男声もＳ四十一を中心に、Ｓ四十、Ｓ四十二の二十人が帝国ホテルに集合。当然、主賓の「加藤」も引きずり込んで、学生歌はじめ、数曲を声も高らかに披露した。私も思いっきり棒を振った。大スクリーンには、男声時代のステージや、彼が組んでいたカルテット等の写真が。

加藤教授が、過去にこんなことをやっていたことを知る人は少なく、加えて、合唱の迫力、ハーモニーにもあっけにとられた、お偉いと思しき人も多かった。幹事連は「最大の山場を作ってくれてありがとう」と。加藤君は「男声のために何もしていない私のためにこんなことを…」と大恐縮、大感激。「いつの日かみんなと歌いたい。いつになるのかなあ！」とも。

学生の前でも、先生、業者の前でも、男声時代と同様に、彼は私を「引っちゃん」と呼ぶ。恥ずかしいが実に嬉しいことである。今年の四月からは、福島県郡山市の日大工学部に研究、教鞭の場を移している。

（四）四十三年卒の皆さんは、同期の旅行を続けています。最近の様子を寄稿いただきました。

今年も行こう　温泉旅行！

吉田恵光（Ｔ１）

我々四十三年同期は卒団時に二十数名在籍しており、現在も連絡を取り合っているメンバーは二十六名となっています。

卒団後しばらくの間は勤務の都合で疎遠でしたが新宿焼き肉屋・明月館でのＯＢ懇親会をきっかけに四十三年同期のみでの集まりも増え、菅原敏行君の

言い出しっぺ（？）で、平成十年七月からパートナーを伴っての年一回の同期会旅行を始めました。第一回目は平成十年七月の福島県岳温泉で、参加者は同期九名、奥様四名、子供一名の十四名で始まりその後毎年継続してきました。今年はこの五月に石井隆一元委員長の幹事により京都に旅行し、総員三十二名（ＯＢ十八名＋奥様十四名）が参加しました。この旅行では寒河江君の尽力で東本願寺改築工事見学という貴重な体験もでき、大いに旧交を温めました。

来年も青柳君（Ｔ１）の幹事により、山形県銀山湖温泉で開催の予定となっています。更に付け加えれば、最近は奥様同士の集まりも行われ、懇親を深めているようです。

東北大学男声合唱団OB会平成 19年度会計報告

自平成17年12月3日至平成19年9月30日（単位；円）

収入の部		支出の部	
適用	金額	適用	金額
前期繰越金	0	総会関係支出	
会費収入		総会費	393,890
総会会費	396,000	コピー費	700
通常会費	569,000	通信費	
		一括発送費	102,180
		一般通信費	61,896
		文具費	
		文房具など	4,063
		印刷費	
		写真印刷	4,096
		楽譜印刷	11,655
		HP管理費	
		HP管理費	14,600
		出張費	
		仙台出張	27,600
		会議費	
		学年会	25,620
		仙台支部活動費	
		仙台支部へ	100,000
		会費の振替	16,000
		現役支援金	
		17年実施分	20,000
		19年実施分	30,000
		手数料	
		印字サービス等	2,815
		次期繰越金	149,885
合計	965,000	合計	965,000

281名の皆さんに会費のご協力をいただきました。
ありがとうございました。

ご参考
仙台支部繰越金　46,078

六、ホームページから

六月三十日、アカデミカコール演奏会を聴いた引地さんの知人が感想を寄せ、これを引地さんがホームページの掲示板に載せてくれました。

「アカデミカコール演奏会」の感想

（一）全体の感想

全ステージを通じて、各校ＯＢとも特徴がでていて、「男声」らしい響きとアンサンブル、聴き手を飽きさせずひきつけるものがあった。三澤さんは、タダタケを短い練習時間の中で三団体をあそこまでまとめたのは、さすがマエストロ。

ピアノ伴奏も含めて東北が一歩リードの感否めず。プログラムも歌詞を別刷りにし、各指揮者の寄稿文もよく、内容が充実していた。

（二）個別ステージ

Ⅲステ（東北大、「沙羅」出演五十人）

東大（五十四人）より人数は少ないが、音量、迫力あり。若いＯＢも目立ったせいか、パートバランスも、ff、ppの効かせどころも、アンサンブルも良かった。ステージカラーの黒装束で身を包んだ永井ピアニストも、うまく曲に乗せてひきつけていた。

「沙羅」は、詩（言葉）に作曲がぴったりマッチした曲だが、須田指揮者が実に見事に表現していて訴えるものがあった。特に四曲目（沙羅）、七曲目（占ふと）がジーンときて素晴らしかった。

四曲目（沙羅）の「眞玉夕露重くして」の歌い方は絶品で、言葉とおりの情感が男声のハーモニーと重い響きの中で表現されており、最高にしびれた。

七、訃報

佐藤隆さん（三十二年卒、Ｔ２）

昨年十一月、東京男声合唱団の大阪公演の折、関西在住のＯＢの名簿を整理し連絡をとる中で、平成五年に亡くなっていたことがわかりました。

三井潔夫さん（二十九年卒）

本年三月一日、お亡くなりになりました。

三井さんは初代指揮者に仁科博之さんを招きいれた「男声」創設者の一人でした。

昨年の仙台支部結成大会では、元気な声で一本締めをして下さいました。ご冥福をお祈りします。

編集後記　あらためて、ホームページにたくさんの情報が書かれていることがわかりました。それを会報としてまとめるのも意味あることに思いました。

編集担当　小松正佳（四十六年卒）